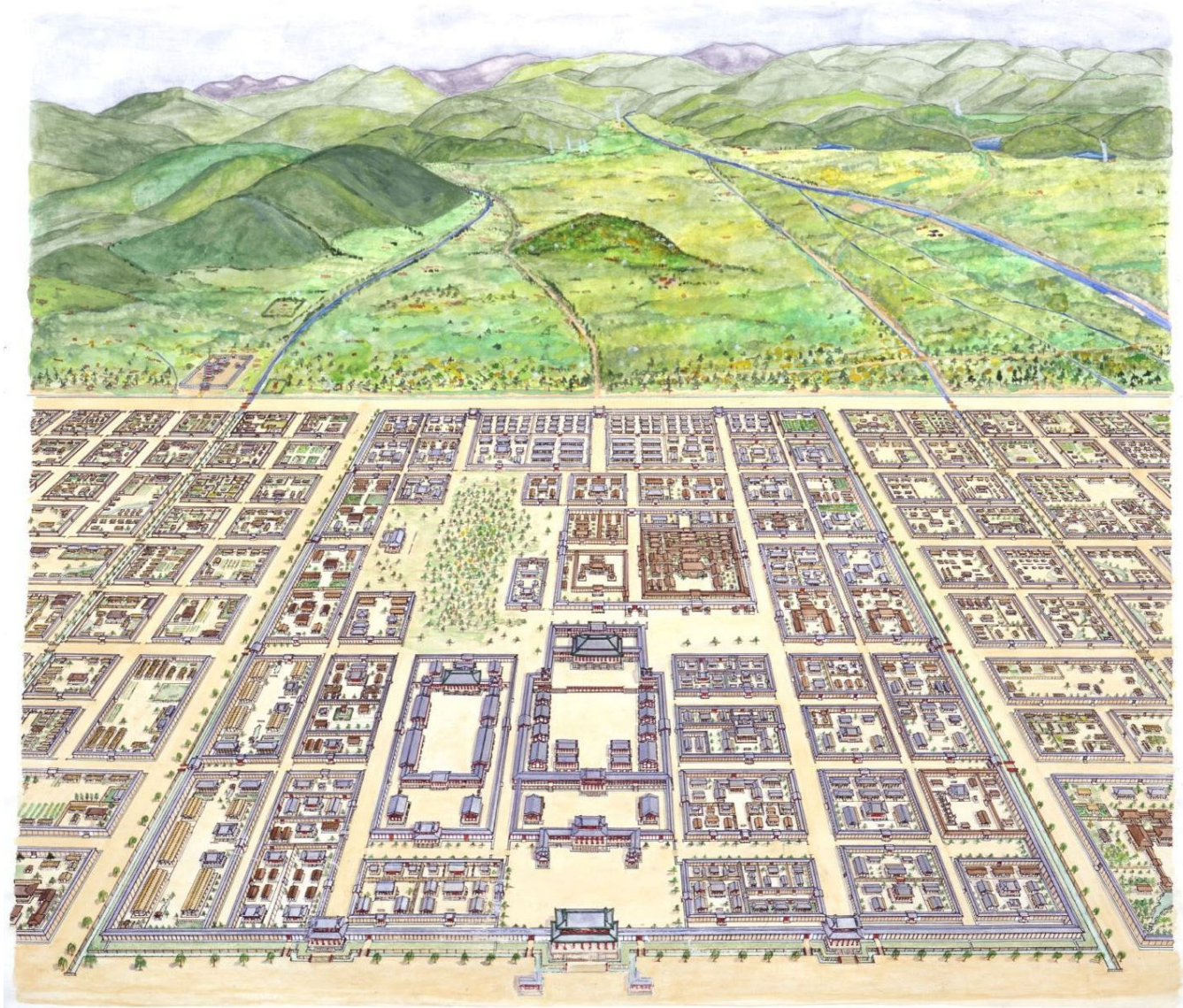


京都の散歩道 (3) 平安京

残念ながら今年も葵祭(賀茂祭)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止(葵祭行列保存会と葵祭行列協賛会が3月15日に発表)。緊急事態宣言(東京・大阪・兵庫・京都 2021年4月25日—5月11日: 政府は5月5日現在で延長検討中)直後でもあります。平安時代、「祭」といえば賀茂祭のことだったそうですので、今月はせめて平安京の姿を想像してみたいと思います。

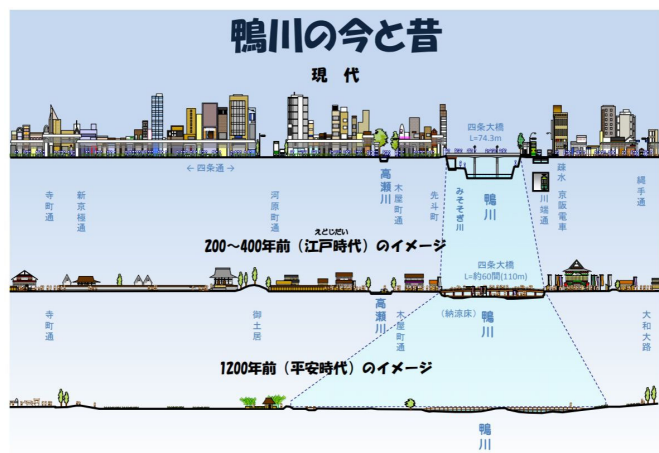
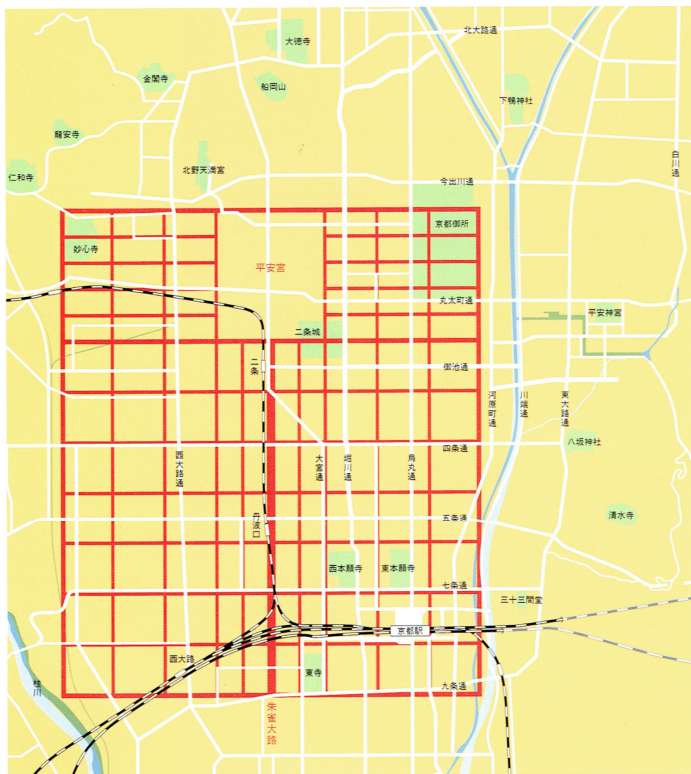
京都市が1994年に平安建都1200年記念として編集発行した「甦る平安京」は、ひとたびページを開くや、尽きない魅力に引き込まれる美しく貴重な本で、元京都市埋蔵文化センター・京都市考古資料館第9代館長の梶川敏夫氏による美しい図や文章も含まれています。



平安宮復元図(「甦る平安京」京都市編集・発行(1994)、pp.10-11 図版1より: 梶川敏夫氏のご許可をいただいて掲載)

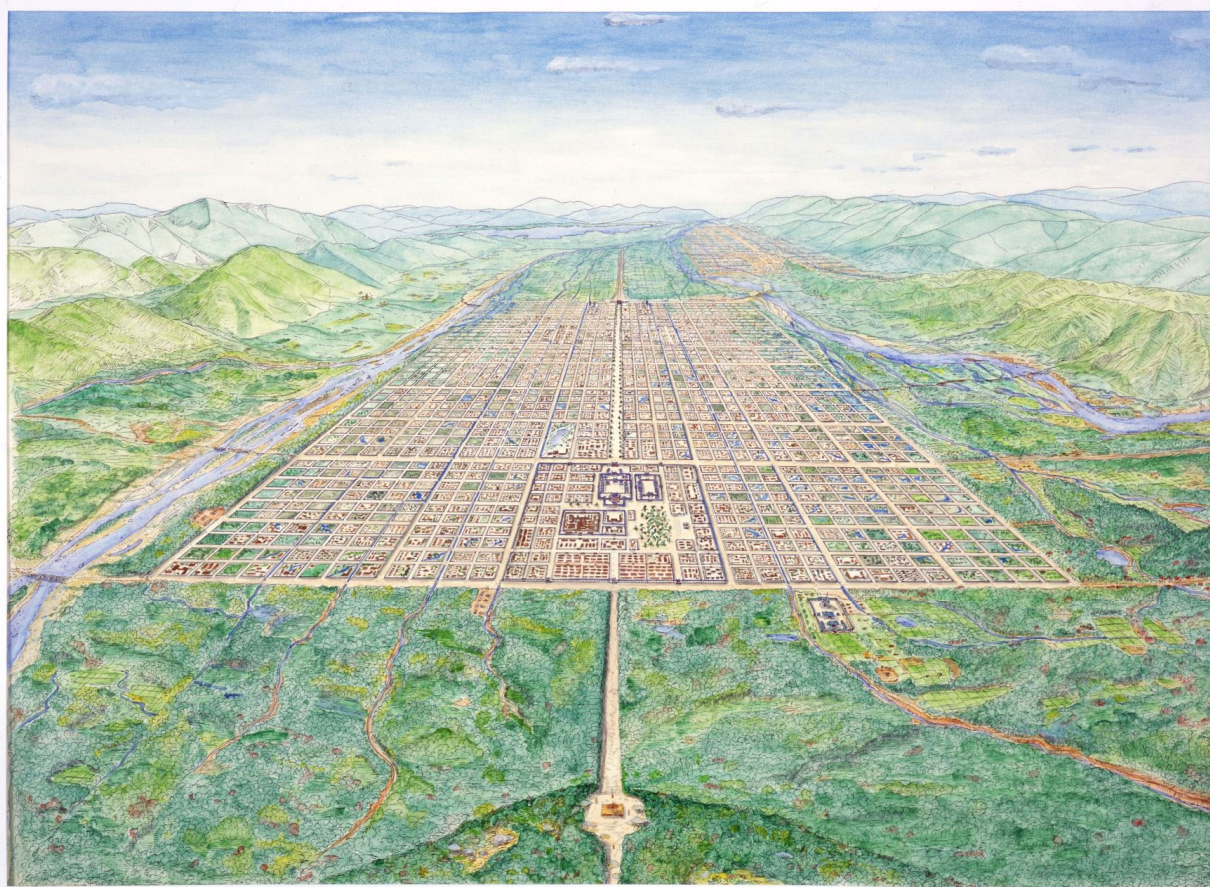
同書には次ページのように現在の京都市地図に平安京を重ねた図も示されています(p.80)。現在の千本通り(二条以南)が朱雀大路ですので、現在の“京極”が京の東端であったことはよく理解できますね。当時の東京極大路は寺町通(寺町京極)に対応するそうです。

なお、白河法皇(1053 – 1129)が天下三不如意と嘆いた「賀茂川の水、双六の賽、山法師」の鴨川については、京都土木事務所による「鴨川の河川整備工事について」に下図のような興味深い情報があることを付記します。



<http://www.pref.kyoto.jp/kyotodoboku/documents/kamoseibi-1.pdf>

それでは「天子／君子は南面す」(https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000090295)——前頁と同じく梶川氏による図で平安京を北方から眺めていただき、新型コロナウイルスの早期収束を祈りましょう。



北方から俯瞰した平安京（「よみがえる古代京都の風景—復元イラストから見る古代の京都—」三星商事印刷(2016)、p.19 図版9より：梶川敏夫氏のご許可をいただいて掲載） 編集人